



週間情報



No.0732

発行日 令和7年8月26日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

消防本部の動き

行事

◆ 「火災予防及び予防救急に関する連携協定」を締結

大阪南消防局（大阪）

大阪南消防局では、令和7年8月7日（木）、大阪東部ヤクルト販売株式会社と「火災予防及び予防救急に関する連携協定」を締結し、締結式を開催しました。

この協定は、当消防局が目指す「安全・安心なまちづくり」と同社が企業ビジョンに掲げる「未来体験応援企業®」に基づき、両者が連携・協力して火災予防及び予防救急啓発への取り組みを推進することを目的として締結したものです。

今後は、地域住民と密接な関係を築いているヤクルトレディの方々と連携し、火災による死者数ゼロを目指して、火災予防運動期間中における防火啓発と住宅用火災警報器設置の支援を推進するとともに、予防救急の啓発も行い、地域住民の健康な身体づくりを目指してまいります。



【締結に伴う記念撮影】

訓練

◆ 多数傷病者対応訓練を実施

浦添市消防本部（沖縄）

浦添市消防本部では、令和7年7月30日（水）から同年8月1日（金）までの3日間、消防本部構内において、多数傷病者対応訓練を実施しました。

この訓練は、先着隊による状況把握、指揮権移行の要領に関する部分訓練を行った後、想定訓練を行い、連携強化を図る段階的教育を行いました。

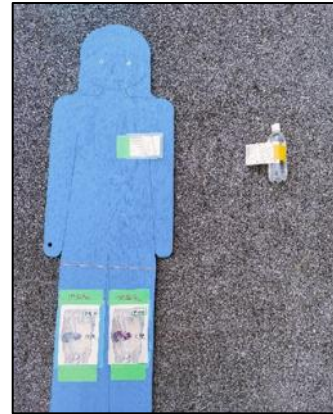
当日は、「商業施設内で1台の車両が暴走し、およそ40人の傷病者が発生した。」との想定で、二次災害の防止、役割分担、隊員の再配置、トリアージ、病院選定に重点を置いて実施しました。

また、病態付与については、病態カードと沖縄県消防学校からお借りした傷病者ボードを使用し、開眼・出血・打撲痕などを視覚的に再現したほか、500mlのペットボトルを一次トリアージで緑に分類された傷病者に見立てて配置し、移動の簡易化を図りました。

今後も訓練を継続し、多数傷病者事案に対する災害対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】



【傷病者ボードなど】

◆ 解体予定の建物を活用した救助活動訓練を実施

さつま町消防本部（鹿児島）

さつま町消防本部では、令和7年8月4日（月）、鹿児島県警察本部機動隊と合同で、解体予定の町営住宅を活用した救助活動訓練を実施しました。

この訓練は、倒壊建物からの人命救出は時間との戦いでもあり、両機関が協力して効率的な救助活動の展開が求められることから、災害現場における警察機関との連携強化と技術の共有を図ることを目的として実施したものです。

当日は、それぞれの機関が保有する破壊器具を活用したブリーチング訓練を実施し、実際の建物を活用した訓練は、大変貴重な経験となりました。

今後も、実践的な訓練を継続し、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 解体予定の共同住宅を活用した消防訓練を実施

春日部市消防本部（埼玉）

春日部市消防本部では、令和7年8月4日（月）から6日（水）までの3日間、大東建託株式会社春日部支店にご協力いただき、解体予定の共同住宅を活用した消防訓練を実施しました。

当日は、スモーク加工を施した面体を活用し、視界の悪い環境下での検索救助訓練を行ったほか、救出活動や消火活動時に必要となる進入路、退出路を確保するための玄関ドアや窓ガラスなどの破壊訓練を実施しました。

また、最終日には、同社が主催する市民見学会において、地域住民への防災意識の向上を図ることを目的として、救助訓練や消防車両を展示しました。

災害現場に近い環境下における実践的な訓練を通じて、迅速かつ的確な判断力を養うことができ、大変有意義な訓練となりました。

今後も、このような訓練を多く取り入れ、消防防災体制の充実・強化に努めてまいります。



【市民見学会の様子】



【訓練後の記念撮影】

◆ 「警防本部運用訓練」を実施

石橋地区消防組合消防本部（栃木）

石橋地区消防組合消防本部では、令和7年8月8日（金）、実災害時に使用する災害対策室において、「警防本部運用訓練」を実施しました。

当日は、警防本部の運用に従事する職員23人が参加し、「管内で震度6弱の地震が発生した。」との想定で図上訓練を行い、さまざまな被害情報などに対する、各職員の運用・対応能力や役割を再確認することができました。

各課の職員が一堂に会する訓練を通じて、連携を図る際のボトルネックとなる部分が明確になり、円滑な情報共有の重要性を再認識することができました。

今後も訓練を重ね、警防本部の運用のさらなる向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

研 修

◆ 「令和7年度ハラスメント研修会」に参加

相馬地方広域消防本部（福島）

相馬地方広域消防本部では、令和7年8月4日（月）、5日（火）の2日間、相馬地方広域市町村圏組合が主催する、「令和7年度ハラスメント研修会」に参加しました。

この研修会は、当組合の職員研修実施計画に基づき、公務員としての倫理意識を高めるとともに、より良い職場環境づくりを目的として参加したものです。

当日は、一般社団法人日本防災教育訓練センター代表理事のサニーカミヤ氏を講師としてお招きし、「ハラスメント防止対策」について、グループワークを交えながら実践的な内容でご講演いただき、貴重な学びの機会となりました。

なお、消防職員と組合職員あわせて158人が参加し、係長以上と係長未満の職員に分け、計4回の研修会を実施しました。

今後も、職員一人一人が倫理意識を高めるとともに、地域住民に信頼される公務員として、職務の遂行に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 火災現場における安全管理研修を実施

駿東伊豆消防本部（静岡）

駿東伊豆消防本部では、令和7年8月6日（水）、火災現場における安全管理研修を実施しました。

この研修は、職員がこれまでに経験した災害で得た教訓や制度などを確実に伝承することで、消防業務の重要性の再認識と火災性状および注水技術を学ぶとともに、過去の事故事例を確認し、火災活動時における安全管理の知識・技術の習得につなげることを目的として実施したものです。

当日は、令和4・5年度に消防大学校に教官として派遣されていた西宮市消防局の松本孝志氏を講師としてお招きし、ご講義いただきました。

今後も、組織として、火災現場の安全管理体制の強化に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 防災に関する職員研修を実施

由利本荘市消防本部（秋田）

由利本荘市消防本部では、令和7年8月7日（木）、防災に関する職員研修を実施しました。

当日は、公益財団法人日本防災協会総務部広報室長の石渡英幸氏を講師としてお招きし、防災制度、防災技術、防災の効果などについてご講演いただき、同協会に寄せられる問い合わせ内容や多くの消防職員が疑問に思うポイントをわかりやすく解説していただきました。

また、防災品と非防災品を活用した燃焼実験を行い、燃え方の違いを確認することができたほか、防災品が火災予防に重要なものであるということを改めて認識することができ、大変有意義な研修となりました。

今後も、さまざまな研修を通じて、職員の知識・技術の向上に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 救急実務研修会を実施

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部（宮城）

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部では、令和7年8月8日（金）、今年度2回目の救急実務研修会を実施しました。

この研修会は、救急隊員の知識・技術の向上を図ることを目的として、年4回実施しているものです。

当日は、遭遇する機会も少なく、救急隊員の関心が高い「産科救急」について、気仙沼市内の医療機関に所属する助産師を講師としてお招きし、救急活動における出産時の対応について講義と実技指導を行っていただきました。

この研修会を通じて、分娩対応や新生児仮死対応などについて学ぶことができたほか、産科救急に対する不安要素や疑問点などを解消することができ、今後の救急活動に活かせる大変有意義な研修会となりました。



【研修会の様子】

そ の 他

◆ 防災体験を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁練馬消防署では、令和7年8月1日（金）、練馬区役所が主催する「夏休み子どもパトロール隊」の消防署・警察署見学において、防災体験を実施しました。

当日は、抽選で選ばれた区内在住の小学生15人と保護者11人が参加し、応急救護体験、初期消火体験、消防車の乗車体験などを行い、参加した小学生が命を守る仕事の大切さに触れながら目を輝かせて真剣に取り組む姿を見ることができました。

参加者から、「消火器って重いですね。」「AEDが使えるようになりました。」などの声を聞くことができ、普段、防災訓練になかなか参加してもらえない、30代～40代の子育て世代の方々にも災害対応力を高めてもらえる一日となりました。



【防災体験の様子】



【防災体験後の記念撮影】

◆ 「上尾市消防本部発足60周年記念 夏休み一日消防士」を開催

上尾市消防本部（埼玉）

上尾市消防本部では、令和7年8月6日（水）、7日（木）の2日間、上尾市・伊奈町内の小学4年生から6年生までを対象に「上尾市消防本部発足60周年記念 夏休み一日消防士」を開催しました。

このイベントは、消防の仕事や火災予防の大切さを周知することを目的として実施したものです。

当日は、こどもたちが消防車やはしご車に搭乗したほか、放水体験や水バケツリレーなどを行い、消防職員への理解と信頼を深めていただきました。

今後も、同イベントを継続し、こどもたちの防火・防災意識の向上に努めてまいります。



【イベントの様子】

◆ 第3回「消防キャンプ」を開催

周南市消防本部（山口）

周南市消防本部では、令和7年8月7日（木）、8日（金）の2日間、西消防署の訓練施設において、管内の少年消防クラブに所属する小学校5、6年生を対象とした、1泊2日の第3回「消防キャンプ」を開催しました。

この取り組みは、消防体験や避難所を想定した宿泊などを体験することで、幼少期から防災意識の高揚を図ることを目的として実施したものです。

今回のキャンプには、クラブ員男女6人が参加し、放水訓練やロープ渡過訓練などの消防体験、水中転落時の対応要領体験、段ボールベッドの組み立てや防災食で過ごす宿泊体験、女性防火クラブ員による炊き出し訓練、防災講話などを行いました。

今後も、消防クラブの育成に努めるとともに、地域防災力の強化に努めてまいります。



【「消防キャンプ」の様子】

◆ 熱中症予防啓発動画第二弾を作成

大曲仙北広域市町村圏組合消防本部（秋田）

大曲仙北広域市町村圏組合消防本部では、令和7年8月13日（水）、熱中症予防啓発動画第二弾を作成し、当消防本部SNS公式アカウントに掲載しました。

作成した動画は、環境省が発表する暑さ指数が「危険（31以上）」となった日に、熱中症予防の啓発記事と併せて掲載しています。

第一弾の動画内では、「教えて消防士さん！熱中症ってどうやってふせぐの？」と題して、熱中症を予防する行動を紹介し、第二弾の動画内では、「おしえて消防士さん！熱中症になったらどうする？」と題して、熱中症の応急手当について、分かりやすく説明しています。

ぜひ、当消防本部SNS公式アカウントをご覧ください。



【第一弾動画のサムネイル】



【第二弾動画のサムネイル】

消防学校からの便り

◆ 「オープンキャンパス」を実施

岐阜県消防学校（岐阜）

岐阜県消防学校では、令和7年8月3日（日）、「オープンキャンパス」を実施しました。

これは、県内消防職員の志望者増加や初任教育における学生の企画力・調整能力向上を目的として、消防職員総合教育（初任教育救急科）の学生が主体となって企画・運営し、初めて実施したものです。

当日は、気温が40℃にせまる暑さのなか、県内の大学、専門学校、高等学校の学生など、合計63人が参加し、通常点検や三連はしご操法訓練などを見学していただいたほか、ロープ結索やホース展張などを体験していただき、参加者が真剣な眼差しで訓練を見つめる姿や、日々の訓練と消防学校の生活について積極的に質問する様子が印象的でした。

また、県下消防本部の採用案内ブースも設置され、参加者はそれぞれの採用担当者の話に対して熱心に耳を傾けていました。

この「オープンキャンパス」を通じて、参加者の皆さまが消防職員を目指すきっかけとなったことを願っています。



【オープンキャンパスの様子】

国等の動き

消防庁通知等

◆ マイナ保険証を活用した救急業務（マイナ救急）で全国消防長会に対して支払う経費について（通知）

（消防救第284号、令和7年8月12日）

消防庁救急企画室長から各都道府県消防防災主管部（局）長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

平素より、救急業務の推進につきまして御理解と御協力をいただき御礼申し上げます。

さて、マイナ保険証を活用した救急業務（マイナ救急）においては、「マイナ保険証を活用した救急業務（マイナ救急）の実施に要する経費について（通知）」（令和7年4月15日付け消防救第117号）でもお伝えしたとおり、令和8年度以降のマイナ救急の実施に要する経費は、各消防本部に御負担していただく必要があります。

一以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/250812.pdf>）に掲載されています。

【問合せ先】 消防庁救急企画室
安藤補佐、金子補佐、駒走係長、
森係長、神代事務官
電 話：03-5253-7529（直通）
E-mail：kyukyuanzen@soumu.go.jp

◆ 警防活動時等における消防職員の安全管理の再徹底について

(消防消第355号、令和7年8月18日)

消防庁消防・救急課長から各都道府県消防防災主管部長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

令和7年8月18日、大阪府大阪市中心部の火災現場において、消防活動中の消防職員2名が死亡するという極めて憂慮すべき事案が発生しました。

現時点において、事案の詳細は不明ですが、今回の事案を鑑み、各消防本部においては、「安全管理体制の整備について」(昭和58年7月26日付消防消第90号)及び「警防活動時等における安全管理マニュアル及び訓練時における安全管理マニュアルの一部改正について」(平成28年3月31日付消防消第63号)等に基づき、安全管理体制の再点検及び安全管理マニュアルの再徹底を図るなど、万全を期するようお願いします。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/20250818_syoukyu355.pdf) に掲載されています。

消防庁 消防・救急課
職員第一係 小川・能登
TEL : 03-5253-7522
E-mail : shokuin@soumu.go.jp

情報提供

◆ 第64回火災科学セミナーの開催について

公益社団法人日本火災学会

平素より、日本火災学会にご指導とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当学会では、毎年火災科学セミナーを開催し、火災科学の振興と普及に努めているところですが、今年は千葉市と名古屋市の2会場で開催することとなりました。

多数の皆さまのセミナーへのご参加をお待ちしております。

1 東日本会場（千葉会場）

(1) セミナー主題

岩手県大船渡市で発生した大規模山林火災を受けた災害への備え

(2) 開催日時

令和7年11月13日（木） 13時00分から16時40分まで

(3) 開催場所

千葉市中央区中央2-5-1 千葉市文化センター3階 「アートホール」

2 中部・西日本会場（名古屋会場）

(1) セミナー主題

大規模イベント及び外国人来訪者等が利用する施設における「避難」について

(2) 開催日時

令和7年11月28日（金） 13時00分から17時00分まで

(3) 開催場所

名古屋市東区上堅杉町1番地 ウィルあいち4階 「ウィルホール」

3 参加料（PDF版テキスト含む）

(1) 会員、賛助会員（当該団体に勤務する職員を含む。）、後援団体職員及び消防職員

3,000円

(2) 一般（非会員）

5,000円

4 テキスト（冊子）について

冊子でのテキストを希望される方は、別途費用の事前決裁をしていただき、当日会場にてお渡しをさせていただきます。

5 お申し込み方法

Paymentによる申込方法を日本火災学会ホームページ（<https://jafse.smoosy.atlas.jp/ja>）にてご案内させていただく予定です。

受付の開始時期、セミナーの詳細及び最新の情報につきましては、ホームページご御覧ください。

連絡先

公益社団法人日本火災学会 事務局長 谷内

E-mail : kasai50@sepia.ocn.ne.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 木原

原稿データは、weekly@fcj.gr.jpに送信願います。